

不正咬合学入門

Introduction to Malocclusal Study

キーワード

- ① 口腔統合医療学
- ② 歯科矯正学
- ③ 不正咬合
- ④ 近赤外線分光法

授業概要

不正咬合の種類とその原因を理解する。更に、不正咬合によって引き起こされる各種弊害についても理解する。講義の前半では、不正咬合の種類と不正咬合の要因について解説を行う。講義の後半では不正咬合によって引き起こされる各種弊害についてゼミ形式の講義を行う。特に、(1)不正咬合の種類とその要因についての解説・講義を行う。(2)不正咬合によって引き起こされる各種弊害について学生参加型のゼミ形式での講義を行う。以上により不正咬合学を検討する能力の基本を養成することを目的として開講する。

授業科目の学修目標

歯科矯正学の不正咬合の種類とその原因を理解する。更に、不正咬合によって引き起こされる各種弊害についても理解する。本科は、必要な大学院の応用力と知恵に必要な知識を修得する事を目標とする。

授業計画

- ① 基礎
 - ・ 歯科矯正学に関する成長発育 3コマ 山口徹太郎
 - ・ 歯科矯正学100年の歴史 3コマ 山口徹太郎
 - ・ 不正咬合の種類と不正咬合の要因について 3コマ 山口徹太郎
- ② 歯科矯正近接領域
 - ・ 歯科保存・歯科補綴・歯科放射線・口腔外科等矯正との関係について 2コマ 山口徹太郎
- ③ 臨床
 - ・ 不正咬合の分析（歯及び骨格）について 3コマ 山口徹太郎
 - ・ 診断について 3コマ 山口徹太郎
 - ・ 治療方針について 3コマ 山口徹太郎
 - ・ 治療計画について 3コマ 山口徹太郎
 - ・ 治療について 1コマ 山口徹太郎
 - ・ 保定について 1コマ 山口徹太郎
 - ・ 不正咬合に伴う各種弊害について 1コマ 山口徹太郎
 - ・ 矯正歯科倫理 4コマ 山口徹太郎

教科書および参考書

歯科矯正学 第5版 医歯薬出版株式会社

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

大学院教育と同時に、日本矯正歯科学会の認定医育成に準拠した臨床教育も同時に受けていただきます。矯正歯科認定医の取得を目指して頂きます。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 歯科矯正学資料、分析、診断、治療計画、治療、保定の基礎を理解する。
- ② 歯科矯正近接領域の規範と倫理を十分理解し体現できる。
- ③ 歯科矯正臨床と基礎の近接した研究領域を研究し、解決する力を身に付ける。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	0%	40%	0%	30%	30%

評価の要点

成果発表とは、学会発表ポスター・スライド作成の評価20%×2回=40%。口頭試問10%×3回=30%は、実験ノートをもとに評価する。その他は、矯正歯科臨床のワイヤーベンディングを評価10%×3回=30%する。

理想的な達成レベルの目安

これまでの歯科矯正学の概念にとらわれない、新たな空想や問題を段階をふまえて解決できる人材となる達成レベルは90%。臨床歯科医学の倫理感に関しては、100%とする。